

臨床工学技士の今後

生命維持管理装置領域の拡大

- ・救急救命領域、在宅医療、高齢者介護領域
- ・新しい各種治療業務・臓器保存業務

生命維持管理装置領域のエキスパート化

- ・専門分野のエキスパート
- ・医療情報管理者

医療機器の専門医療職

- ・研究開発・製造業、販売業、保守管理修理業
- ・医療機関での機器管理・臨床業務

病院管理者

- ・臨床工学技士部門管理者・病院医療設備管理者
- ・病院リスクマネージャー

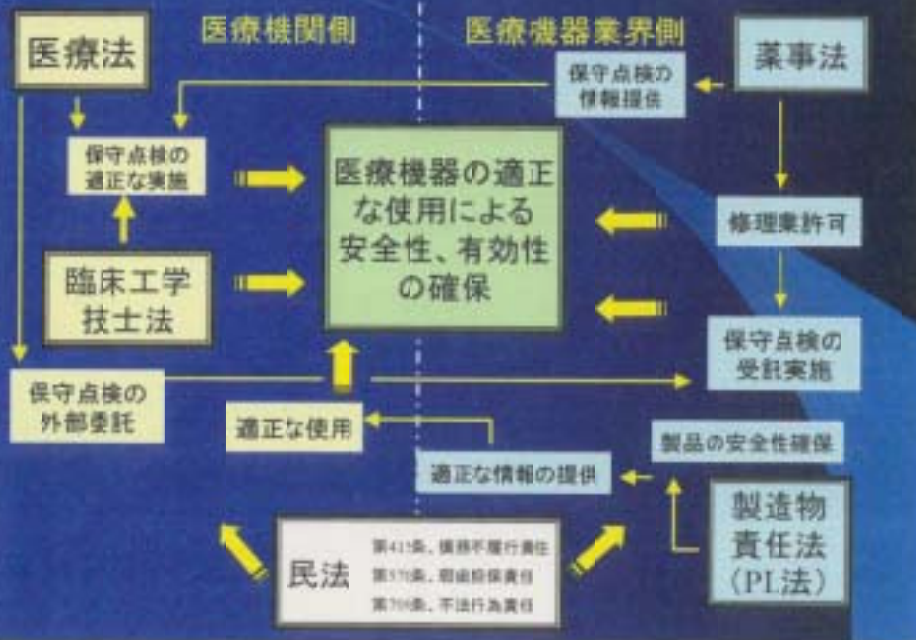
教育者

- ・学校教員・臨床工学者

行政関連

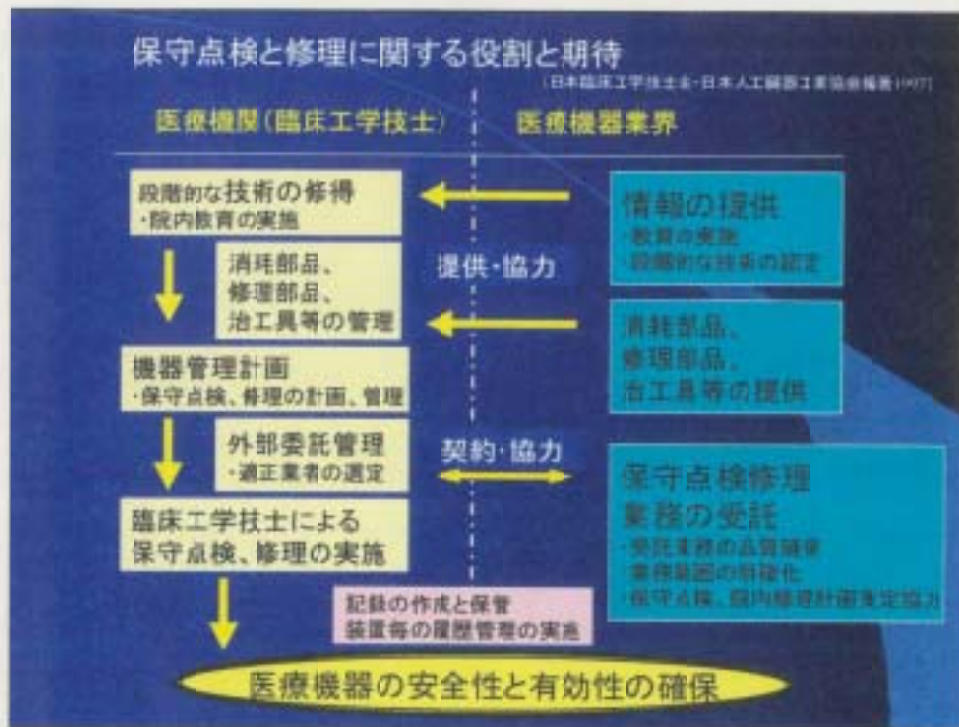
- ・厚生行政技官

保守点検と修理に関する法規制 (日本臨床工学技士会・日本人工臓器工業協会編著(1997))



保守点検と修理に関する役割と期待

日本臨床工学技士会-日本人工臓器工業協会編著(1997)



今後のあり方 1

	臨床工学技士が行うべき事	医療機器業界が行うべき事
①医療機器管理体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> 医療機器の評価・選定から廃棄までの一環的な管理の実施 製造(輸入販売)業者への品質改善の提案及び情報のフィードバック 	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関への継続的な情報の提供 医療機関からの提案に基づく品質改良の実施
②医療技術の発展	<ul style="list-style-type: none"> 医療、工学の先端技術の修得と実践 臨床経験に基づく、新しい医療機器開発への参画 	<ul style="list-style-type: none"> 最新技術を導入した医療機器の研究開発 医療現場ニーズを反映した医療機器の開発

今後のあり方 2

③至適医療の追求(患者QOLの向上)	<ul style="list-style-type: none">・臨床経験に基づいた医療機器改良の提案・医療スタッフの一員としてのチーム医療の確立・他の医療スタッフへの適切な院内教育の実施	<ul style="list-style-type: none">・臨床情報を集約し、患者の立場に立った医療機器の改良・医療現場の要求に応じたきめ細やかな対応・医療現場実態の理解及び企業内への浸透
④医療費の抑制	<ul style="list-style-type: none">・保守点検、修理の院内スタッフの実施による外部への資金流出の軽減・適正な修理の実施による装置のダウンタイムの短縮・機器の効率的な運用を図ることでの経済性の向上	<ul style="list-style-type: none">・医療機器の信頼性の向上による機器管理コストの軽減・より経済的な医療機器の開発及び提供・より経済性の向上を目指した効率的な医療システムの提案

まとめ

以下に、課題を挙げる

1、臨床と研究開発の連携

人材育成、臨床工学技士のスキルアップ

2、学問としての「臨床工学」の確立

大学・大学院での教育研究施設の開設

3、臨床工学技術の標準化

標準化により経済効率を向上